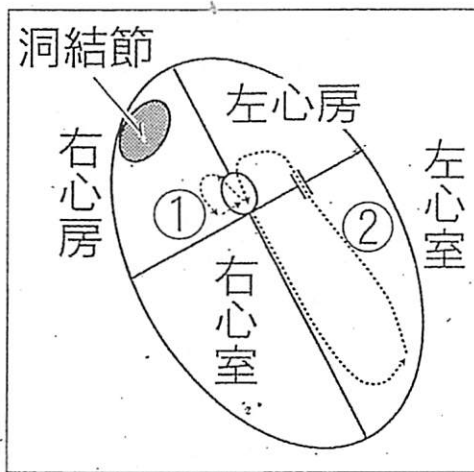


発作性頻拍とカテーテルによる 根治療法

—心房細動・粗動以外の心房性のもの—

奥山が前任地勤務中に書いた新聞記事です。平成 20 年

10月8日毎日新聞に掲載されました。



続・高血圧と脳・
心臓病
50話
毎週水曜

第28話

突然、脈拍数が速くなり、動悸(どうき)がする不整脈で、最も多いのが「発作性上室性頻拍」です。正常では、洞結節からの電気信号は一方通行で心臓の端々まで伝わり、消えてしましますが、新たに洞結節から出てきた電気信号で次の脈が生じます。

ところが、何らかの原因で異常な電気回路ができたたり、先天的に余分な電気経路があったりすると、突発的に電気信号の空回りが始まること

不整脈の根治療法

があります。

強い動悸や不快感がある場合は、点滴治療などで頻脈を停止させます。繰り返しの発作がある場合には、予防薬を試しますが、再発が多いうえ、根治療法ではないので、電極カテーテルを使った手術が最も勧められる治療です。

電極カテーテルは先端に小さな電極をくっつけた細長い管で、血管を通して心臓の中まで入れ、電気信号を直接記録したり、人工的な電気刺激を送り込んだりします。電気刺激で日ごろの頻拍発作が誘発できれば、原因となっている異常な電気回路を探ることがで

きます。ほとんどが、房室結節の辺りで電気信号が小さく空回りするもの(図①)か、大きく空回りするもの(図②)です。

異常な電気回路に高周波の電流を流し、約60度に熱して治療します。約95%の治療効果があり、症状の再発も10%程度までです。手術は局所麻酔で約2時間です。合併症は心臓の周りに出血する心タンポナーデ、正常な電気回路に傷が付く房室ブロック、脳梗塞(こうそく)などがありますが、合計しても1%以下とされています。(大阪府立急性期・総合医療センター心臓内科部長、奥山裕司)

Health